

令和7年度 最上地域在宅医療・介護連携拠点事業

出張研修会報告

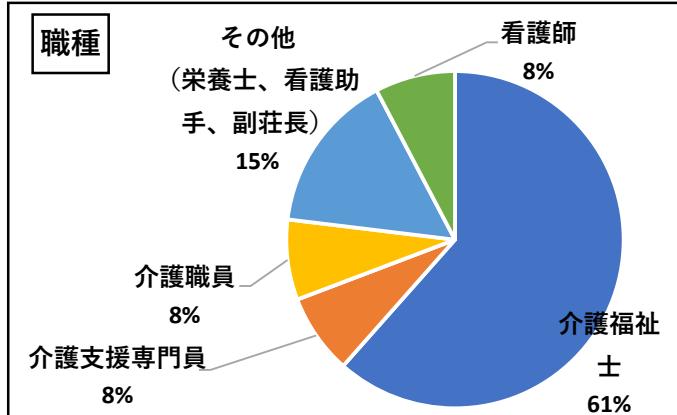
この研修会は、『専門性を高めよう～介護現場で活かせる実践力』をテーマに、在宅・介護現場で働く方々の知識・技術の向上を目指し開催しました。

日 時	令和7年11月12日(水) 15時～16時
開催場所	特別養護老人ホーム 福寿荘
講 師	山形県立新庄病院 認知症看護認定看護師 青柳奈美子氏
研修内容	認知症ケアを実践するために知っておこう ～より良いケアが笑顔を引き出す～ ・認知症を詳しく知る(状態・薬) ・認知症者と接する時の工夫 ・認知症者の幸せとは?
参加人数	15名

アンケート回答状況:参加者 15名、回答者 13名(回答率 86.7 %)

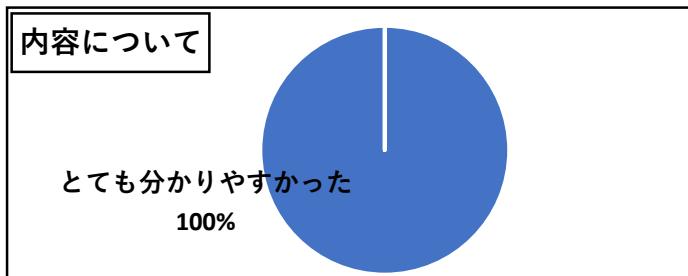
参加者職種

所属	人数	割合
介護福祉士	8	62%
介護支援専門員	1	8%
生活相談員	0	0%
介護職員	1	8%
その他 (栄養士、看護助手、 副荘長)	2	15%
看護師	1	8%
リハビリ	0	0%
計	13	100%



I. 研修会の内容について、いかがでしたか。

	人数	割合
とても分かりやすかった	13	100%
分かりやすかった	0	0%
あまりわからなかった	0	0%
その他	0	0%
無回答	0	0%
計	13	100%

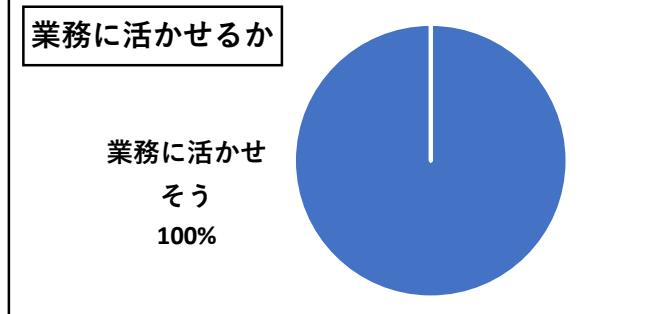


«とても役に立った 主な理由»

- ・細かく病気の種類や薬の説明を聞くことができてとても分かりやすかったです
- ・イラストや事例など、見やすく分かりやすい内容で、頭に入りやすかったです
- ・認知症の方の世界を想像し、何に困っているのか、コミュニケーションを大切にし支援していきたいと思います
- ・脳内の変化、薬の種類や特徴等教えて頂き勉強になりました
- ・分かりやすく、聞きやすい言葉で伝えて下さったので、勉強になりました
- ・認知症=物忘れというような漠然とした捉え方ではなく、より専門的な症状を理解しておくということが大事なスタートなのだと感じました
- ・認知症の症状にあった薬物療法を知ることができ、勉強になりました。BPSDには様々な症状が出現し、それに伴った対応の方法を知ることができました
- ・認知症の方との接し方や不眠時薬を使用する際の注意点等、自分が今後の業務において知識となることを教えていただくことができ大変ためになりました

2. 今後の業務に活かせそうですか。

	人数	割合
業務に活かせそう	13	100%
まあまあ活かせそう	0	0%
あまり活かせない	0	0%
活かせない	0	0%
無回答	0	0%
計	13	100%



«業務に活かせそう 主な理由»

- ・認知症の方への対応の心得を常に頭に入れ、自分の対応を振り返り、客観的に考えながら毎日の関わりを大切にしたいと思いました
- ・関わり方を見直し(声掛けの仕方)により、その人らしさを引き出せるようにする
- ・例に挙げられていた上手くいかない状況が現状としてあるため、その人らしさを理解したうえで笑顔を引き出していける支援をしていきたいと思います
- ・利用者の中には不眠・不穏症状、大声等の症状と様々ですが、どんな症状であるか分析し、薬物以外の方法はないか、多職種と連携していくことが必要です
- ・どんな障害があって、どんな支援が必要かを考えて利用者さんと関わっていきたいと思いました。さらに認知症の知識を身に付けることでケアの質を高めていきたい

3. どのような内容が印象に残っていますか。

- ・認知症の方の世界を知る事、その方に合わせて不安にさせないコミュニケーション能力を身に付けること。会話の引き出しをたくさん作る事、驚かせない、急がせない、自尊心を傷つけないを大切にしたいと思いました
- ・ある施設での一コマが印象に残っており、丁寧な声掛けや説明を心掛け利用者の方が理解し、スムーズに行動できるということが分かりやすかったです
- ・認知症の方に嘘をつくことについてという所が印象的だった。私自身も本人が不安になることなく、精神的に安定できるようその声掛けを行うことがあります。共感できる部分だったので、印象に残りました
- ・自分でできることを奪わない(キーワードと感じた)。役割を与え、大切にされていると感じられるようにしたい
- ・笑うことの大切さ
- ・「住み慣れたところに一日でも長く住み続けること」がその人の安心につながることが印象に残っています。信頼関係を確実に築き上げていきたいです
- ・認知症者と接する時のコミュニケーション術。自分のイライラして声や態度、表情が表に出てしまうと、利用者、認知症者にも伝わってしまうので対応を気をつけたいです

4. 今後の出張研修会にご希望のテーマ等がありましたらご記入ください。

- ・ユマニチュード
- ・オムツの当て方
- ・急変時の対応
- ・アンガーマネジメント
- ・介護技術
- ・ボディメカニクス

